

平成 2 7 年度学校評価報告書

平成 2 8 年 3 月 2 8 日

北海道教育委員会教育長 様

北海道音更高等学校長 藤井勝弘 印

次のとおり平成 2 7 年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

1	学ぶ意欲や基礎的な知識・技能、思考力・判断力など、学力の向上を目指し、分かる授業を追求する。
2	自己指導能力や倫理観・規範意識の向上を目指し、教職員と生徒相互の信頼関係を構築する。
3	進路実現や望ましい勤労観・職業観の醸成を目指し、個性や能力に応じたきめ細やかに対応する。
4	基本的な生活習慣の確立はもとより他を思いやる心など、豊かな心や健やかな体の育成を目指し、生徒自らの心身を鍛える。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	- 新しいタイプの高校としてスタートしたことで教職員の教育活動に対する意識が更に高まった。このことにより、学校課題解決に向け、組織的・計画的な取組を進めることができた。 - コンプライアンスの一層の強化が図られた。	- 単位制は順調にスタートしたので、単位性の特性を活かし、特色ある学校づくりを行うことを期待する。 - 農業科の教育成果を単位制普通科に活かしていくことが大切である。 - 地域に日常の教育活動の情報を伝える手段の更なる工夫が必要。
改善方策	*校務の情報化や組織運営の工夫を通して、業務の効率化を図る。 *複数体制で業務を行うことでOJTを機能させ、教職員の資質・能力の向上を図る。 *教職員のメンタルヘルスに細心の注意を払う。 *コンプライアンスを一層高めるとともに施設設備の管理責任保守点検を強化する。 *学校便り、HPの活用を強化し、外部への情報提供に努める。 *懇談機会の設定や行事への参加に積極的に努め、家庭、地域との連携を深める。 *教員数の変動、進路動向の変化等に対応するため教育課程の検討を継続する。	
学習指導 ・ 生徒指導	- 習熟度別授業により生徒の学力の底上げが図られたが、より高い学習意識を身に付けさせる指導が必要である。 - 問題行動に対し組織的な対応ときめ細やかな個人面接指導等で対処できたが、積極的な生徒指導の促進が必要である。	- 習熟度別授業を充実させ、生徒の力をしっかりと伸ばす授業を行うことが大切である。 - ネットなど表面化しにくい様々な問題行動に対応するため、教育相談や個人面談等の充実が必要である。
改善方策	*習熟度別授業や生徒による授業評価の全校的な実施等の施策を通じ、生徒に学ぶ楽しさ、わかる喜びを与え、生徒を引きつける授業の工夫を図る。 *教科・学年による課題学習の計画化、家庭学習推進活動を実施する。 *いじめ、ネットトラブルへの注意を強化し、未然予防、早期発見・解決に努める。	
進路指導 安全指導 特別活動等	- 職業人や専門家等の講話や科目選択ガイダンス、保護者向けガイダンスを実施したことで進路指導の充実が図られた。 - ネットトラブルの予防的指導を強化し、講話等を活用した啓発活動が充実した。	- 進学者も含め、将来的な就職を見据えた職業観の育成が大切である。 - 事故を未然に防止できるように危機管理能力を更に高めて欲しい。
改善方策	*キャリア教育の全体計画について検討し、実行性のある取組を行う。 *業務継続計画を策定し、災害時の基本的対応を周知徹底する。 *普通科と農業科の連携による「花と緑の活動」を行うことで地域社会に貢献する人材育成に努める。	
公表方法	・PTA役員会で説明 ・学校ホームページへ掲載 ・学校だよりに掲載	

3 添付資料 (1) 自己評価書 (2) 学校関係者評価書 (3) 外部アンケート結果 (4) 報道の記録